

# アイエスイーの 獣害対策商品導入事例

## 02

【対象害獣】 イノシシ

【設置商品】 **アニマルセンサー2**

実際にアイエスイーの商品で獣害対策を行っているお客様の、獣害対策の様子をご紹介します。

### No. 02

愛媛県松山市中島地区  
箱わな + センサーで  
イノシシを撃退

松山市役所  
農林水産課  
+  
中島地区イノシシ被害  
防止対策連絡協議会



## 本来いなかったはずのイノシシが、海を渡って上陸し、急増。

中島は、愛媛県松山市に属する島群のうち、もっとも大きい島で人口は約 3000 人。本来中島には四足歩行動物はいなかったが、15 年ぐらい前からイノシシの姿を確認する声が聞こえるようになった。それ以降爆発的に増え続け、農作物をイノシシ被害から守るため、市役所と地元住民が一体となって獣害対策に取り組んでいる。



松山市から高速船で約 30 分。海に囲まれた風光明媚な中島は松山市に属する一番大きな島。



豊かな農産物と冬でも暖かいという環境がイノシシにとって好都合な条件が揃っている。

## はこわなだけの対策から、 アニマルセンサーへ変更することで 成獣の捕獲率が上昇。

「まず最初に、愛媛大学農学部と連携し、イノシシに電波発信機を取り付け活動を把握するところから始まった」と話すのは松山市農林水産課の芳之内さんと山内さん。被害状況の調査等、協力して獣害対策に取り組んでいる愛媛大学農学部の武山准教授に、成獣の捕獲が個体数を減らすためにより効果的であるとの話を聞いたことが導入のきっかけになった。それまでははこわなでは、幼獣（ウリボウ）ばかりが捕獲される傾向にあった。入札後アイエスイーのアニマルセンサーを設置したところ、成獣の捕獲率が上昇したという。今後もアニマルセンサーを使ったはこわなによる捕獲を推奨していきたいと話してくれた。

## これまでの獣害対策が評価され、 27 年度に協議会が中国四国農政局 局長賞を受賞。 新聞にも掲載されました。

中島地区が素晴らしいのは、なんといっても地域の農家さんの団結力で、各地区のわなかけはほぼ全員が参加しているという。中島をさらに 11 の地区に分け、3 日ずつ担当して役割をこなしている。センサーにソーラーとチャージャーを取り付けるなど、捕獲向上のためのアレンジにも余念がない。

また、捕獲で得た報奨金はすべて協議会で管理し、大型冷蔵庫の購入やわな資格取得のための補助を行っている。そのため、中島だけで免許取得者は 110 人にも及ぶ。

松山市では、イノシシの被害防止策として、猟友会による駆除のほか、電気柵などの被害防止柵設置支援による防除、イノシシの生息地を分断する緩衝帯の整備などの環境整備に取り組むほか、狩猟免許補助による幅広い世代の狩猟者育成や感知センサー付き「はこわな」の整備などによって、捕獲体制の確保や捕獲推進を図っている。



↑ 協議会で購入した大型冷蔵庫。捕獲後はここで一時保管される。

← イノシシが降りてくる山の方向へ柵の入り口を向けて設置することがポイントと話してくれた。